

第2回 志布志湾海岸保全対策検討協議会 議事概要

- ・開催日時：令和6年2月5日（月）13：30～15：00
- ・開催場所：東串良町役場（防災庁舎 対策本部室）
- ・出席委員：西委員，加藤委員，中川委員，下平委員，東委員代理（千歳副町長），
宮原委員，永野委員代理（桑山建設課長兼建設第一係長），楠田委員，
原崎委員，安藤委員，渡邊委員，小濱委員，厚ヶ瀬委員，星野委員，
佐多委員，鍋田委員，福永委員

以下，各議題における主な意見（発言順）

1) 深淺測量の統合結果

※西会長より配布資料に基づき説明

加藤委員

- ・ 等深線位置や海浜断面の変化から地形変化の全体像は概ね把握できた。
- ・ 全体の土砂収支の整理として，肝属川河口の汀線変化をデータに反映させるとよい。
- ・ 沿岸部の構造物の設置経歴（いつ，何が設置されたか）まで反映させれば土砂量の経時変化が分かりやすくなる。
- ・ 港湾や漁港の防波堤の延伸，人工リーフや突堤の設置，河川の導流堤の延伸，石油備蓄基地の整備履歴を，時間軸で整理して反映させるとよい。
- ・ 地形変化は，高波でも生じるので，志布志港等の近隣で観測された高波の履歴を整理して反映したほうがよい。
- ・ 側線断面の変化量だけではなく，側線区間ごとに地形変化を整理した期間で土量の変化を整理し土砂収支に反映させたほうがよい。
- ・ 水深6mまでの等高線と併せて水深10mの測量データがあれば，一部であっても反映させた方がよい。地形変化が解釈しやすく，土砂収支を整理する上でも役に立つ。
- ・ 1980年代以降，日本周辺の平均海面水位は上昇してきたと言われており，地形変化への影響も皆無とは言えない。志布志港など近隣の潮位観測所の年平均潮位の経時変化を整理した方がよい。

中川委員

- ・ これまでの沿岸域利用や高波浪来襲，河川出水の影響など土地利用と自然条件の履歴に応じた海岸地形の変化を把握し，時間軸で評価していくことが重要。

宮原委員（東串良町長）

- ・ 肝属川河口，柏原海岸前の石油備蓄基地付近の航路が年々土砂堆積が進行している。今後，状況が悪化すれば，災害発生時における緊急対応船舶や漁業者への影響が懸念されるため，浚渫をしてほしい。

2) 他県の対策事例

※事務局から配付資料に基づき説明

加藤委員

- ・ 他県は海岸のサイクルとして，突堤整備や養浜による土砂収支を整理し，把握している。
- ・ 志布志湾沿岸と異なる状況もあるが，地域の情勢や現状を把握しながら，それぞれ抱えている問題を連携して解決することが重要。

中川委員

- ・ 肝属川河口の浚渫土砂も養浜の資源となったりもする。
- ・ 様々な養浜材はあると思うが現場の特徴と状況を見極めながら取り組む事が重要。

3) 今後に向けた意見交換

事務局

- ・ 前回の協議会の意見や今回紹介した他県の事例を踏まえ，養浜について検討を進めたいと考えている。
- ・ そのためには，大前提として地元漁協をはじめとする海の利用者の方々の合意形成が必須と考えている。
- ・ また，土砂の受け入れに関して一定のルール作りをしていく上でも，現状の砂の性質や潮流を把握することが大切だと考える。

- ・ 今回の意見も踏まえ、関係者の合意形成を図りながら、こういった調査に取り組んでいきたいと考えている。

西会長

- ・ 養浜について、関係者の合意形成を図るためにも、まずは、現地の砂の底質調査を実施し、その結果に応じて皆様が納得のいく土砂の受入れ判断基準やルールを設けた上で、可能であれば来年度から試行的に養浜を実施してみようということではいかがか。
《委員から異論なし》

宮原委員（東串良町長）

- ・ 柏原海岸の浜崖に消波ブロックの設置、肝属川河口の浚渫土砂の養浜への活用も検討をお願いしたい。

4) その他

※ 今後の進め方について

事務局

- ・ 養浜の試行的な取組に向けた関係者の合意形成のためにも、現地の砂の性質を把握した上で、受け入れる土砂の判定基準や受入れルールを整理したいと考えている。
- ・ 基準やルールを設けるにあたり、改めて協議会に諮るための資料の整理や、とりまとめ方などの細かな点については、皆様にも相談しながら実務レベルの作業部会を設けてその中で検討・整理させていただきたい。
- ・ また、深浅測量の統合結果や、今回の皆様の意見を参考に、効果的な養浜試行箇所の候補地を選定したいと考えている。
- ・ 検討・整理の過程において、必要に応じて作業部会から、学識者の先生方をはじめ、各機関の皆様方へアドバイスを求めるかもしれないが、ご協力をお願いしたい。

西会長

- ・ 今後、事務局とも相談し、現地採取した砂の土質試験を行った上で、実務レベルの作業部会を開催して、養浜における土砂受入れ基準等について案をまとめていけると考えている。

- ・ 土質試験やとりまとめ検討の時間を考慮すれば、第3回の協議会は令和6年7月頃になると考えているが、いかがか。
《委員から異論なし》

※ 志布志湾海岸連絡協議会からのお知らせ

宮原委員（東串良町長）

- ・ 志布志湾海岸保全検討協議会が設立されたことを受けて、志布志湾海岸連絡協議会としては、平成17年度から1市3町が連携し築いてきた体制を今後も維持しつつ、これまで継続的に行ってきた要望活動については、当面の間見送ることとしたい。
- ・ また、志布志湾海岸保全対策検討協議会の検討事項以外で、要望すべき懸案が発生した場合は、連絡協議会で協議し、検討協議会の場で諮るか、要望活動を再開できればと考えている。

※ その他

福永委員

- ・ 国土交通省の施策として「流域内の事業間を通じた総合的な土砂管理の推進」という取組があり、ストックヤードを活用した、土砂の受け入れ・持ち出しの調整や土砂の流通の強化など、総合的な土砂管理の構築を推進している。
- ・ 協議会における今後の検討について、こうした施策も念頭に置きながら進めていきたいと考えている。
- ・ 加藤委員や中川委員から意見があった、施設の設置履歴を取り入れた検討・分析を行い、少しずつ対策としてのアウトラインを作成し、そのアウトラインに沿って各施設の海岸管理者で対応していけるものと考えていきたいのでご協力をお願いしたい。

(以上)